

別表1

用途別床面積内訳書(事業系)【記入例】

店舗、事務所以外の用途はここに記入する。
 (店舗、事務所が無い場合は、その欄の名称を消してそちらに記入してもよい。)

階	延床面積	店 舗			事 務 所				共用部分等面積 (廊下、階段、エレベーター等で 廃棄物を排出させない部分)
		業 種	戸数	床面積	戸数	床面積	戸数	床面積	
1階	3,500㎡	デパート	1	3,000㎡					500㎡
2階	2,600㎡				1	2,500㎡			100㎡
合 計	6,100㎡		1	3,000㎡	1	2,500㎡			600㎡

別表4

廃棄物保管場所算定書【記入例】

(1) 容器数の算定

1週間における
営業日数を収集
日数で割る。

用途	廃棄物	床面積 × 排出基準 × 可燃・不燃の割合 × 収集間隔 ÷ 容器容量 = (A)	最低必要個数	予備率の加算	必要個数
デパート	可燃	$3,000\text{m}^2 \times 0.08 \times 3/4 \times 7/5 \div 15\text{kg} = 16.8$	可燃 + + + = 24個 (B)	[(B)+(C)] × 1.4 = 44.8	44個
	不燃	$3,000\text{m}^2 \times 0.08 \times 1/4 \times 7/5 \div 15\text{kg} = 5.6$			
事務所	可燃	$2,500\text{m}^2 \times 0.04 \times 3/4 \times 7/5 \div 15\text{kg} = 7$	不燃 + + + = 8個 (C)		
	不燃	$2,500\text{m}^2 \times 0.04 \times 1/4 \times 7/5 \div 15\text{kg} = 2.3$			
	可燃				
	不燃				
	可燃			必要個数合計	(D) 44個
	不燃				

(2) 保管場所面積の算定

(ロ)と(ハ)に関しては、さいたま市では特に規定は無いので、必要とする面積を記入する。

(イ) 容器保管必要面積	容器的直径・縦 [0.6] m × 容器的直径・横 [0.6] m × 容器数 (D) [44] 個 = (E) [15.84] m ²	(E) ÷ [2] 段 = [7.92] m ²
(ロ) 洗浄排水設備面積	2 m ²	(ハ) 作業上必要面積 7 m ²
合計 [(イ) ~ (ハ)]	16.92 m ²	

- 【算定上の注意】
1. 計算は用途別を実施し必要個数を算定する。
 2. 収集間隔は実態を想定し記入する。
 3. 容器1個あたりの容量は15kg(60ℓ)を基準とする。
60ℓの規格 丸型ポリ容器・・・直径60cm
角型ポリ容器・・・縦35cm × 横55cm × 高さ60cm
 4. (A)は、小数点第2位を四捨五入する。(B)・(C)は小数点を切り上げる
 5. 必要個数(D)は、小数点を切り捨てる。
 6. 予備率は40%を確保する。
 7. 段数は最大2段とする。